

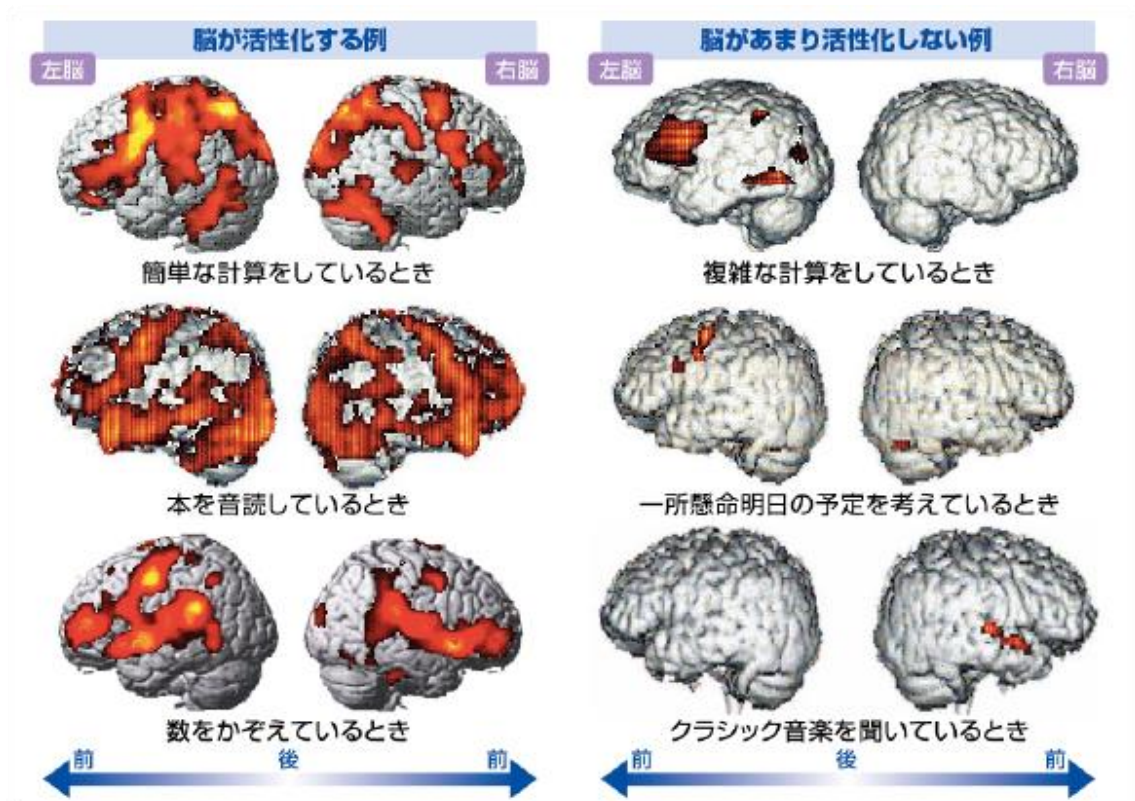
学習療法について

当法人では全ての施設でくもん学習療法をケアに取り入れています。学習療法とは認知症を患った方の脳機能維持や改善、または認知症を予防するための非薬物療法です。

くもん学習療法は全国の特別養護老人ホームや老人保健施設、グループホームやデイサービス、有料老人ホーム等で実施されています。学習者はアルツハイマー型認知症の方、脳血管性認知症の方など様々な要因から認知症になられた方々です。

その学習を支援するのは学習療法実践士または学習療法マスターの資格を持つ職員です。一人の支援者が二人の学習者（場合によっては一人の学習者）を対面で、約30分という時間で行います。

脳科学の研究から分かっていることは、難しい問題を解いたり、TVゲームをしたりすることでは脳は余り働かず、反対に、簡単な（ $8 + 3 =$ ）計算を素早く解いたり、文章を音読している時は年齢に関わらず、また認知症の方でも脳全体が活性化した状態になります。





他の人から誉められたり、
認められた言葉がけをされると一瞬で脳は活性化します。

人間は人とコミュニケーションしている時も脳が活性化することが分かっています。特に他の人から誉められたり、認められた言葉がけをされると一瞬で脳は活性化します。

さらには目的をもって手指を使う行為でも高い活性化度が得られます。

これら科学的に分かっていることを組み合わせ、認知症高齢者の脳機能維持や改善、さらには高齢者の認知症予防に用いるやり方を「学習療法」と言います。

【学習療法の定義】

学習療法とは、音読と計算を中心とする教材を用いた学習を、学習者と支援者がコミュニケーションをとりながら行うことにより、学習者の認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善を図るもの。



【デイ・フォーラム染井吉野での学習療法の様子】

※詳細は、くもん学習療法センターのホームページをご覧ください。

<https://www.kumon-lt.co.jp/>